

2016 年度部門別営業概況



セメント事業

国内・海外ともに減収ながら、営業利益では増益

セメントの国内需要は、公共工事の減少、資材費や労務費の上昇による影響等から官公需・民需ともに減少傾向にあり、4,177万トンと前期に比べ2.0%減少しました。そのうち、輸入品は27万トンと前期に比べ12.6%減少しました。一方、総輸出数量は1,152万トンと前期に比べ8.9%増加しました。

このような情勢の下、当社グループにおけるセメントの国内販売数量は、受託販売分を含め1,437万トンと前年同期に比べ2.0%減少しました。輸出数量は435万トンと前期に比べ9.2%増加しました。

以上の結果、国内セメント事業の売上高は3,850億6千万円と前期比76億3千9百万円の減収となりました。営業利益につきましては、販売数量が減少する中で、生コン関連の増益、変動費の抑制などにより295億2千6百万円と前期比10億1千5百万円の増益となりました。

海外につきましては、米国西海岸のセメント、生コンクリート事業は、出荷数量が伸び、市況も概ね回復傾向を示しています。中国のセメント事業は、需要の低迷が続きました。ベトナムおよびフィリピンのセメント事業は、旺盛な内需に支えられ、堅調に推移しました。また、為替は円高となりました。

以上の結果、海外セメント事業の売上高は1,738億5千4百万円と前期比81億6千8百万円の減収となりました。営業利益につきましては、米国市場が堅調に推移したことから、93億7千1百万円と前期比32億5千1百万円の増益となりました。

■ 売上高 5,589億1千5百万円 ▼ 前期比158億8百万円の減収

■ 営業利益 388億9千8百万円 ▲ 前期比42億6千6百万円の増益



資源事業

子会社の連結除外により減収・減益

骨材事業は、東北・四国地区等を除いて需要が低迷したものの、物流効率化等が採算改善に寄与しました。鉱産品事業は、海外鉄鋼向け石灰石の出荷が堅調に推移しました。建設発生土処理事業の受入数量は、前期を上回りました。しかし、一部連結子会社が持分法適用関連会社へ異動したことなどにより、減収・減益となりました。

■ 売上高 801億7千7百万円 ▼ 前期比133億5千6百万円の減収

■ 営業利益 77億5千9百万円 ▼ 前期比3億5千3百万円の減益

環境事業

廃棄物処理、石膏販売の増加により増収・増益

廃棄物処理および石膏販売などが堅調に推移しました。また、熊本地震で発生した災害廃棄物処理の取り組みを進めたことから増収、増益となりました。

■ 売上高 779億1百万円 ▲ 前期比44億4千万円の増収

■ 営業利益 76億6千6百万円 ▲ 前期比1千1百万円の増益



建材・建築土木事業

販売が低調により減収、減益

建築材料および土木材料が低調に推移したことなどから、減収、減益となりました。

■ 売上高 740億2千7百万円 ▼ 前期比68億2千6百万円の減収

■ 営業利益 60億6千1百万円 ▼ 前期比6千8百万円の減益



その他事業

エンジニアリング事業が低調により減収、減益

当事業は、不動産、エンジニアリング、情報処理、金融、運輸・倉庫、化学製品、スポーツ等の各事業で構成されます。エンジニアリング事業において工事の受注が低調に推移したことなどにより、減収・減益となりました。

■ 売上高 753億3千1百万円 ▼ 前期比98億9千万円の減収

■ 営業利益 32億6千7百万円 ▼ 前期比7億4千6百万円の減益

